

令和3年度 第2回 沖縄県 SDGs 専門部会 Planet（地球）部会
議事概要

日時：2022年3月9日(水)15:00~16:30

場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）

出席者：

（委員）

赤嶺委員、宇賀神委員、大城委員、齋藤委員、高林委員

（沖縄県）

島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）

それでは定刻になりましたので令和3年度、第2回目の地球専門部会を開催させていただきますと思います。よろしく申し上げます。資料につきましては事前にお送りさせていただきました資料二つございます。資料1と資料2ということで概要とアクションプラン素案ということになっています。

発言しない間は皆様慣れているので大丈夫だと思いますが、ハウリング防止のためにミュートをお願いします。本日は大島委員が欠席ということになっておりますので、5人の委員にご参加いただきましてご意見をいただく予定でございます。それではここからは進行役にて進めさせていただきます。

（進行）

年度末のお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。前回12月に骨子案についてご意見をいただきましたけども、その後市町村や関係団体からのご意見を参考に検討を進めまして、推進本部、県庁の中で3月1日に素案を取りまとめたところです。本日はこの会議でこの素案について広く皆様からご意見ご助言いただきたいと思っております。どうぞ忌憚のないご発言、よろしく願いいたします。では始めに事務局より資料全体をご説明して、それから委員の皆様にご意見を頂戴する形で進めて参ります。それでは事務局お願いします。

（事務局）

資料1の1ページはこれまでの経緯になっています。第1回の資料にもありましたけども、これで12月にこの地球部会も含めた専門部会の開催をさせていただいて、その後関係市町村、市町村、関係団体の意見。これはSDGsパートナーの皆様、団体の皆様への意見紹介させていただいて、これをもとに素案を作った。その際ローカル指標、SDGsのゴール等も整理をした上で素案をまとめて3月1日、先日推進本部、知事関係部局長の会議ですね。そこ

で素案をまとめたということです。先週から専門部会を開催させていただいて、今日専門部会、地球部会ということになっております。同時並行ですけども、関係団体が市町村への意見照会も改めてさせていただいています。そういった意見を集約して3月末に案を決定して、パブリックコメントを経て5月頃に決定していく。そういうスケジュールで準備をしているところでございます。

次のページが変更したポイントをまとめたものになります。まず1番目。色々なご意見が寄せられていますので、それを反映させていただく形で検討内容を再検討したということになります。その上でアドバイザリーボードという会議がありますけども、その中でグローバルスタンダードの視点を入れるべきだというご意見があつて、その視点で全体的に見直しをかけております。さらにSDGsのゴール・ターゲットというのは整理して追記をさせていただきました。ローカル指標の設定については後ほど少し考え方をご説明したいと思っておりますけども、検討にあたっては国連のグローバル指標、国際指標というものと内閣府の方で設定している自治体向けの地方創生SDGsローカル指標、あと沖縄県に新たな振興計画を検討しておりますけどもその中の成果指標。そういったものをインプット材料として検討を行ったという経緯があります。

資料2をご覧くださいと分かるものもありますが、全て目標値を設定する予定ですね。ただし令和4年度から新たな振興計画に関しては目標の議論をすると。令和4年度の実施計画というのを改めて作るようになっていて、そのプロセスで目標値の検討を行うことになっておりますので、現時点で入れられなかったものというのがいくつかあります。これは設定され次第明記していくということでご理解いただければなと思っております。

あとはSDGs推進における重要な視点というのを追加させていただきました。ほかの専門部会でもありましたが統合的な取り組みというところの視点がちょっと弱い、アクションプラン色々な項目がありますけども、その一つやればいいということではなくて組み合わせていくという視点が必要だということで統合的な視点。あとは人権、ジェンダー平等。こういった共通的な視点として高い視点のものについてはアクションプランの個別のところに入っている部分もありますけども、まとめて全体にかかる事項として整理したというのが経緯でございます。

5の方ですけども統合的なモデル事例の追加ということで、こちらは第1回の地球部会の中でも色々ご意見をいただいでいて、具体的なテーマで統合的な色々な取り組みの関連性、相互関連性とか相乗効果とか、そういったところを見るようにすべきではないかということと、テーマに絞って議論することでもう少し具体的な議論が深まるのではないかと。そういうご意見がありました。当初はこのアクションプラン来年度県の施策等も整理しながら関連性を整理していくということも考えていましたが、実はこれは県の施策って基本的な施策ということだと数百ありまして、多分まだ最終決着していないですけど、主な事業という事業ベースでいくと数千の事業数に跨ぐ形になるのであまりこの専門部会の中で数千の事業の話を議論するというのは効率的ではないし効果的ではないので、具体のテーマ

をベースに必要なに応じて県の施策等もご説明させていただきながら議論していくということの方がいいかなということで、統合的なモデル事例というのを追加させていただいています。

今回5つのテーマを作っておりますけども、これはスタートとして設定してまして、今後取り組みを追加していく、またはテーマを追加していくことを予定しているということです。これが主な変更点になっています。

その関連でアクションプラン。この絵は前回の絵でもございましたけども、アクションプランのこの構成についてもここに新たに重要な視点、統合的アプローチ、人間の安全保障は人権の関係になります。あとはジェンダー平等等が入ってきたということと、あとはここに施策というのが当初入っていましたが、統合的なモデル事例に置き換えております。

次のページは、プラットフォームの話になります。プラットフォームは最後までもう少し詳しくご説明したいと思っておりますけども、当初の絵ではプラットフォームが二つあった絵があり、分かりづらいというご意見がありましたので、見直したというものになっております。アクションプランを作ってこの推進体制の中でこのアクションプランを実現していくという取り組みをしながら、問題点が出てきたらまたアクションプランにフィードバックしていくという仕組みの中で、アクションプランの見直しも進めていくということを考えています。

次のページからは、指標設定の考え方になります。指標設定については、グローバルスタンダードの視点を踏まえながら検討する方向ですが、分野が広く、国際指標も含めて情報量が非常に多いので、どういう手順でどんな考え方で整理に着手するか、検討し始めていくかということ、先に整理したというのが今回の話になります。結論と最初の入り口の考え方とではズレがあるものもありますが、検討の入り口としての考え方を共有しているということで、ご理解いただければと思います。

具体的指標については国際指標、グローバル指標というのを使わせていただいたということと、ローカル指標については内閣府の方で、グローバル指標に対して地方自治体が設定できる地方創生 SDGs ローカル指標というのがあります。これは 2019 年に設定されており、でちょうど見直しの検討も行われています。当然見直しされた時にはまた我々の方も、それを踏まえて見直し作業するべきだろうと思っています。現時点での指標というのが公表されていますので、実はこの指標ももともと各都道府県、市町村、それは取り組み状況をスコア化したデータベースというのがあります。

これはローカル SDGs プラットフォームという名前で公開されているもので、法政大学の川久保研究室がまとめているものです。川久保先生は内閣府の有識者会議のメンバーでもあります。このグローバル指標とこのローカル SDGs プラットフォームデータベース。これを活用した指標分析の先進事例が大阪府で取り組まれています。国際的な日本の評価と国内における自治体の評価、この2軸から分析していて、国際指標評価は SDSN、国内評価はローカル SDGs プラットフォームの情報を使っております。

これをもとに沖縄県のケースで分析をしてみました。結論としては地方創生 SDGs ローカル指標、内閣府の指標で分析というのは他地域との比較を行えるが、実際やってみると分析結果と地域課題認識にズレが生じる。これは指標設定の考え方になってくると思いますが、ここが課題だということを結論としては分かってきております。

次のページは抜粋版ですけれども例えばゴール1、貧困だとターゲットというのがあります。ターゲット番号があります。これはたくさんありますが、それに対して国際指標というのは必ず張り付いています。例えば貧困ラインを下回って生活する人の割合とかですね。それに対してフォローアップするとかモニタリングするための統計データというのがないとアプローチできないので、内閣府の方で例えばこういう統計データがありますよ、という。指標として今整備されているということです。例えばこういう貧困ラインを下回って生活している人口の割合みたいなのに対して、年間収入階級別の世帯割合。筋は悪くないなということですが、公表データとしては15,000人以上の市町村対象というのがあって、それ以下の小規模の自治体のデータというのは公表されていないというところがあって、例えば政令指定都市同士だとありかもしれませんがなかなか都道府県レベルだと使いづらそうだとこのところがあります。比較としてもそれがいいのかどうかというのは分からないということですね。さらに指標設定がされていないグローバル指標もありますし、これは公共サービスへのアクセスという考え方ですが、例えば基礎的サービスにアクセスできる割合みたいなのところが上下水道普及率という設定があって、理屈は分かるけども貧困の話でこの指標でみんな比較していく、都道府県ごとに比較していくということがアプローチしていいのかとか、指標を見ていくと悩ましいところがあるというのが事例として示させていただきました。

次のページは、参考資料です。国際指標のレポートで、これが地方自治体地域国内のデータベースになっています。これは後ほどご覧いただければと思います。

次のページは、大阪府の事例です。国際的なレポート、国際評価をこちらに置いて高い・低い。国内での大阪府の立ち位置は高い・低いと2軸の分析から四つに分類されます。これはあくまでも大阪府の分析ですので、こういった分析のやり方をベースに沖縄県にあてはめるとどうなるのかを検討した結果が次の次8ページです。

国際的な日本の評価で貧困問題というところが達成度は高く見えてくるというのは何となく分かるような気がしますが、自治体 SDGs 指標からすると全国と比較して沖縄県は貧困においてスコアが高いという結論になります。これが果たして沖縄の最重要課題として、子どもの貧困対策をいろいろやっていることとあっているかが懸念されます。

他にも、健康寿命からすると今どんどん下がってきていて地域のローカルの課題としては非常にクローズアップされているところですが、ちょっとこういう結果になるのはどうしても指標設定上こうなってしまうということになります。

そのため、地域の実情に合った指標設定が必要なケースがあると考えておりおります。この辺は昨日の SDGs のシンポジウムの中で基調講演された東京大学大学院の北村先生も課題

設定についてはこのグローバル指標に何かし落とし込めるような視点で地域独自の指標を作っていく方がいいという話をされていました。

この4分類は出てきたので注意事項というのは配慮しながらも、国際指標をベースに考えるのか、それともローカル指標を中心に考えていくのかという大きく4分類をして、そこから国際指標、内閣府の指標を視野に入れながら、場合によっては地域の実情に応じた目標設定、アクションを踏まえて独自の指標というのを検討していくという、この順番で指標を考え検討を始めました。最終的にはシャープに綺麗に整理できるということよりも、1個1個丁寧に見ていったというのが実情になっています。

例えば指標として59ありますけど、例えばこの優先課題①の性の多様性、LGBT、そういった関係の指標については、さらに国際指標SDGsの中であんまり性の多様性という考え方は入っていないので、実は国際指標にもこの内閣府の地方創生の指標の中にもあまり良い指標というのはありませんでした。こちらの方も自治体関係で非常に適した統計データというものが無いので、ちょっとこれは独自の指標として今整理をしていて、県、市町村も含めた取り組みの割合、これはモニタリングしながら達成度が上がってきたらもっと具体的な取り組みにフォーカスをしたアプローチ、評価、指標にしていくということも考えられるのかなと思ったりして整理をしています。

こんな感じで国際指標、地方創生内閣府の指標、独自の指標というところで見ながら整理をしていきました。

例えばこの6のジェンダー平等。これは色々なセグメントというか団体、立ち位置で変わってきます。とりあえず県の課長級相当以上の女性の割合。沖縄は非常に高いということで代表でも県を入れさせていただいていますけども、こういった管理職に占める女性の割合というのは国際指標の中でもしっかりと位置づけられているので、これ国際指標に合致するような指標として一旦整理をしています。

例えば11。これは医療ですけども人口当たりの医師数ということだと国際指標ではなくて地方創生SDGsの指標があったりしますので、これはローカルのアプローチというところで内閣府の指標を使うということもちょっとあったりします。

この部会に関連するものと、ちょっと飛びますが、スライドの12になりますと、例えばカーボンニュートラルの話が出てきます。この目標に対して今ローカル指標としては1人当たり二酸化炭素排出量という指標を設定させていただいています。これについてはSDGsの中で実は脱炭素二酸化炭素排出量に関する具体的な指標とかは入っていませんし、地方創生SDGsのローカル指標にもなくて、独自指標として一応設定をさせていただいています。ただ、ご存知の通りこの指標についてはCOP等、国際的に使われている指標となっています。再生可能エネルギー電源比率については国際指標として設定されています。このような形で、国際的な指標、内閣府の指標、独自の指標というのを目標の内容に応じて色々検討しました。ちょっと十分でない部分があるというのは重々承知していますが、今後毎年見直しをしていくこととしていますので、指標の設定の仕方については引き続き議論をさ

せていただければと思っていますところす。

プラットフォームについて報告事項として付けております。プラットフォームについては来年度創設をする予定です。今まで県内の企業、団体をパートナー登録することでネットワーク化してきたんですけども、やはり市町村、さらに個人ですね。個人は一般県民という考え方もありますし、大学の先生方というのも個人的なアプローチも多いので、そういったいろいろな方々が会員登録する枠組みと捉えていただければと思います。加えていろんなアプローチを創出していくということで県内ということで、あまりローカルに閉じずに県外の企業、団体、もしくは地方自治体とも会員登録するような形で大きな緩やかな枠組みを作っていこう。問題はこういった会員の皆様に対してこの会議の中でも岩村委員からあったと思いますが、コーディネート機能が重要だという話があって、その通りでございまして、コーディネートというところを置きながらこういったイベント関係で交流をしてみたり、具体的なテーマをもとに、例えば脱炭素というテーマをもとに議論を進めていくような枠組みを作ったり、普及啓発イベント、表彰制度なんかも含めて色々普及啓発の取り組みを進めていければなと思っています。これについては来年度事務局を設置して、こういった取り組みを皆さんと一緒にやっていきたいというふうに考えております。アクションプランを踏まえた具体的な取り組みというところはこういうところで具体化していくというイメージを持っているというところでございます。

スライド16の方はその事務局機能をもう少し詳しく書いたものでございます。これは後ほどご覧いただいて、もしお気づきの点があればご意見いただければと思っております。

続いて資料2をご説明させていただきたいと思っております。資料2の大きなポイントだけ説明させていただけますと、ページの2ページ目か3ページ目についてはこちら骨子の中に入れておりましたけど、実施指針の内容をもう少し詳しく書いたものでございますので説明を割愛させていただいて、この資料4ページのところが重要な視点ということで新たに加わった部分になります。こちらの実施指針のエッセンスを書いている話なのでこれはこういうものですと。5原則とかバックキャストとか書かせていただきましたけども、大事なのはこちらの視点で、まずはアクションプランに係る重要な視点ということで統合性というところをまず入り口に入れております。アクションプラン自体が色々な取り組みが散文的に見える、バラバラ感があるというご意見もあったので、入り口として統合的な取り組みが重要なんですという、考え方を一旦整理していくというところす。

もう一つは他の部会でもかなり議論がありましたが、基本的に17のゴールの達成というのは重要ですが、基本的には人類の幸福とか幸せとか全ての人々が自分らしく生き生きと活躍できる社会というのを目指していくというところが大事で、そのための誰ひとり取り残さないという考え方ですけども、これは人間の安全保障。その他にも子どもの権利条約とか障がい者の権利条約とか色々な人権に関する条約、考え方があります。SDGsはそういうものを理念的に取りまとめた大きな考え方ということになると言う有識者の方もいらっしゃいます。人間の安全保障というところをベースに、ちょっと人権というところはっか

りと捉えるという所を記載しています。加えて、3月ですので今ジェンダーに関しては新聞紙面でもかなり活発に扱われていますけど、ジェンダー平等がアクションプランの中の一項目として入っていますが、SDGsのすべての取り組みを推進するにあたっての重要な手段。つまり全部いろんな取り組みをやるにあたってジェンダー平等とか、もしくは人間の安全保障という考え方を踏まえながら考えていきたいと思いますという考え方を明記しています。パラリンピックもあって、パラリンピックだとそういう障がい者の権利というところもありますけど、やはりオリンピック・パラリンピックを通じてジェンダー平等というのはスポーツの中でもかなり議論というかフォーカスされてきたところで、一見ジェンダー平等というところとちょっとアプローチが違うところがありますけども、そういったスポーツ振興とかいろんなあらゆる場面でこういったところを取り組んでいくということが大事だと思います。ちょうどOISTの方でも女性の研究者育成というところでまた一歩踏み込んだ取り組みをされていると聞いていますので、そういったところをしっかりと考え方として最初の所に入れたということになります。

もう一つは国の方向性をちゃんと無視せずに連動しながら進めていくべきだろうという考え方がありました。SDGs アクションプラン、国も作っています。これは国の毎年度の施策予算を整理したものになりますけども、毎年重点事項というのを取りまとめます。これは先の12月ですね。その閣議決定で決まったものになりますけども、例えばグローバルヘルス戦略ということで感染症対策と創薬、医薬品開発等も含めた考え方と女性活躍、デジタル田園都市構想、クリーンエネルギー、海洋プラスチックごみ、これは国際的な議論も高まっていますけど、そういった国が重要事項としてとらえているトレンドという言い方にもなりますけども、そういったところも示しながら特に企業の方々とかはこういったところ非常に重要視されるので見えるようにちょっとここに位置付けたという経緯がございます。

ここから5ページからは具体的なアクションが整備されております。全体説明すると時間が無くなりますのでポイントだけとっております。

地球部会、第1回の会議の中ではいろいろご意見いただいたところがございます。例えば高林委員からは島で、離島ですね。島で考えついたというアプローチしたサステイナブルな取り組みというのをスケールアップしていくべきだと。それがいろんな所での貢献に繋がるんだというそういったご意見いただいています。これについてはちょっと飛びますけど22ページの方に、これは優先課題の⑫になりますけどもグローバルパートナーシップという大きな枠組みがありまして、その中に環境、エネルギー、それも含めて様々な分野の技術とか経験というの島しょ地域を含めた、島国も含めて世界各地の課題解決に活かしているという、そういう考え方をまとめつつ、共同研究とか交流というのを促進していきましょうという、ここで大きく受ける形で整理をさせていただいています。あとは教育の件についてもお話がありました。9ページ目の方で、これは環境を守るということよりも人間を育成していく、そういった視点が重要だということでお話しいただきました。個別に書くとなかなか薄まっていますが、大枠として1人ひとりが自分らしくイキイキと主体的に将来

に向けて学べるという環境を作るということで、主体的にということ、特に最近の学習指導要領というか文科省の教育方針もその方向に行っていますので、主体性というのは重要視した教育を進めていこうということで、関係部局とも議論させていただいてまとめさせていただきました。

時間の会議がありますので、全員のご意見への対応についてはポイントだけご説明をさせていただきたいと思います。

齋藤委員からのご意見についてはいろんな環境関係の再生可能エネルギーも含めたご質問をいただいています。できるだけ分かりやすく書き込めるようにということで文言の方を整理させていただきました。この辺は資料、優先課題の⑥、⑦というところにまとめておりますけど、一点大きく変わっているのが⑥と⑦に再生可能エネルギーの目標がそれぞれ分散する形で入っていたので、ちょっと分かりづらくなっているという考え方があって、優先課題⑦ですね。エコアイランドの中に入っていた再生可能エネルギーをこちらの前の方の気候変動の方に持ってきて、気候変動の2の方に持ってきて、こちらにあった再生可能エネルギーの話と統合する形でまとめさせていただきました。これが大きな変更点で、齋藤委員からのご意見も踏まえながらもうちょっと分かりやすくというところで工夫を先にさせていただいたということです。

大城委員の方からはマイクログリッドを入れるべきだというご意見がありました。まさにその通りで、地域マイクログリッドとか分散化電源の話なるべく入れるような形で整理させていただきました。ZEH/ZEBの話も改めて整理をさせていただいて、これだけだと分かりづらいのでカタカナを入れる形で見やすくさせていただきました。

宇賀神委員の方からは世界遺産自然公園の保全管理だけでなく活用というご意見もいただきました。それでこちらの方に持続的な利用を推進するということで、ちょっと追記をさせていただきました。

大城委員から、前後しましたけど、希少生物のモニタリングに加えて外来種の話がありました。外来種対策も入れる形で整備しております。

宇賀神委員からもっと具体的な施策とかモデル事例とかそういったものを検討した方がいいのではないかというようなご意見を色々いただきました。重点項目をクローズアップするような考え方とかですね。そういったことがありまして、先ほどもちょっと触れましたけど、モデル事例ということの後半にまとめる形で整理をさせていただきました。

赤嶺委員からは市町村との連携、あとは脱プラスチックもそうですけども、もうちょっとサーキュラーエコノミーという観点でビジネスが立ち上がっていくような考え方を整理すべきではないかというお話をいただきました。これについてはこの中でも溶け込ませています。例えばプラスチックについては脱プラスチックだけではなくて、生分解性プラスチックの話もありましたけども、環境に優しい商品の転換という形でちょっと前広に脱プラスチックだけではなくて、商品転換というところも入れさせていただいています。サーキュラーエコノミーを含めて、ちょっと飛びますけど、23 ページ以降に、これは県の未来都市の

モデル事例ですかね。モデル事例、内閣府と調整したやつなのでちょっと変えることは難しいんですけど、これが未来都市の構図になっていて、ちょっとこれにこだわらずということなんですけども、似たような形で経済社会環境ということでモデル事例というのを作って見たという形になります。これは脱炭素エネルギーの所になりますけども、こういったサーキュラーエコノミーということでいただいたご意見も踏まえながら、関係部局とも調整しながら関連するターゲット、SDGs のゴール、ターゲットを置きつつ食品ロスの話と、あとは食品リサイクルの組み合わせた全体的なサーキュラーエコノミーというところをちょっと整理したという経緯になります。このような形で脱炭素、食品ロス、サーキュラーエコノミー、健康長寿とスポーツ、子どもの貧困の解消。こちらが子どもの貧困対策計画の取り組みになってきますけども、それと所得向上の取り組みというの組み合わせたものとかですね。あとは地域づくり、コミュニティづくりって5つのテーマを作らせていただいております。今後例えば持続可能な観光ということで、観光振興と自然環境の保全、適正利用みたいなところというのは一つ大きなテーマになってくるかなと思っていますけども、持続可能な観光というのはちょうど議論が行われているところですので、もう少し我々の方も研究させていただいた上で、改めて追加でテーマ設定をしていくということを考えていると思っています。あと、人材育成についても非常に重要なテーマですので、そちらも追加できないかなと思っています

資料の説明は以上でございます。ご質問、ご指摘をいただいて、それに対してご説明させていただくという形でこの後はご意見をいただければと思っております。よろしくお願います。

(進行)

ただいま事務局から説明がありました、アクションプランの素案の内容だけではなくて、広くご意見をいただきたいと思っております。ご質問があればよろしくお願います。まずローカル指標を設定するのはかなり大変でした。アクション全てに指標を設定するという形ではなくて SDGs 推進の目標大枠に対してこの指標という形で設定をさせていただいております。また、モデル事例を5つ提案させていただいております。よろしくお願います。それではどなたかということですが、赤嶺委員いかがでしょうか。

(赤嶺委員)

私から気になるところを数点あげたいと思っております。この15ページですかね。資料2の15ページの方ですけども、ちょっと文言が気になるなと思ひまして、例えば2の方のグリーン購入とかですね。グリーン購入、読ませていただくと「グリーン購入とエシカル消費を推進し廃棄物の発生を世界に先駆けて削減する。」ということなんですけども、グリーン購入とエシカル消費をすることが廃棄物の排出を減らすというのはちょっと意味が違うような気がして、例えばですけど環境に優しい消費を世界に先駆けて推進するとかですね。これは消費の方法だと思うんですね。これはいきなり飛んで廃棄物の発生を世界に先駆けて

削減というのはちょっと言葉が合わないというか、というところがあります。

2点目が食品ロスの削減だけではなくて、前回もちょっとお話ししたかと、食品系の廃棄物のリサイクル削減とリサイクルに向けてということで、これもサーキュラーエコノミーの考え方として、ロスだけでは終わらないので、ロスの削減と出てくる食品系の廃棄物の再資源化というところですね。その再資源化が実はあんまり進んでいないなというところがあるので、そこを少しこの業界に関わる者として意識的に入れております。

次がこの一番下の方にある廃棄物の減量化や資源の取り組みにより大気、水、土壌への放出される化学物質というのと、あとは廃棄物を大幅に削減するという、ちょっとこの文言も少し理解が難しいところがあります。廃棄物の減量化や資源循環の取り組みによって大気とか水とか土壌へ放出される化学物質というのとはちょっと整合性取れないというか難しいので、そこはちょっと書き方ももう少し考えられた方がいいかなというふうに思っております。何か大気とか水とか土壌となると例えば化学肥料とかだったら理解はできるんですけど、廃棄物の減量化や資源循環というところの頭の下にそれがあるというのがちょっと理解しにくいところがあります。意見として以上です。

(進行)

専門的なご意見ありがとうございました。では事務局からコメントをさせていただきます

(事務局)

ありがとうございます。3つご指摘いただきました。

グリーン購入と廃棄物が繋がっていないという話。おっしゃる通りです。直したいと思いません食品ロス、サーキュラーエコノミー、再資源化の話は後ろの絵を描くのに一生懸命でこつちをちゃんと見ていませんでした。すいませんでした。こちらにも入れる形で、そういう方向で統合モデルも作っていますのでこちらの方にも書き込む形で整理をさせていただきます。あとは化学物質云々のところはちょっと確かに化学物質というところはちょっと無理が、大気、水のところは無理があるかなという気が確かにいたします。これはSDGsのターゲットのところでこういう書きぶりがあるって、ちょっとグローバルな視点を入れろというところだったので、文言をあちらこちらからちょっと入れ込んだという経緯があるんですけども、確かに整合性が取れていないので、廃棄物を大幅に削減するというところは繋がるかなと思いますので、化学物質が水、土壌に放出される、大気、化学物質。この辺をちょっと見直します。

(進行)

ありがとうございます。説明も早口でしたが、高林先生いかがでしょうか？高林委員お願いします。

(高林委員)

こんにちは。すごく大変な量の仕事ですよ。色々なSDGsのコンセプトがすごく複雑なことで、それをreorganizeするのは大変だと思います。お疲れ様です。そして私達の意見も色々入れていただいて感謝しています。細かい事言うよりか、私二つでビッグピクチャーの質問があるんですけども、このゴールを決めますよね。日本語で何と言いますか？指標というんですか？決めますよね。それで決めて consequence って何て言うんですか？それにリーチしたらとか、リーチしなかった時の次のアクションはどうなるのかなというのは決めていても、「これができたらこういうことができる。」「これができなかつたらこういうことができない。」とか、そういう次の決めるだけではなくてその意味がちょっと分かったらいいなと思います。あと、私はやっぱり教育者なのでSDGsはものすごくカリキュラムに良いことがたくさん入っているんですけども、どうやってそれを小、中、高、大学、大学院までに入れていけることが、それをコーディネートすることができるのかなというのはすごくポテンシャルがあるんですけども、そこが気になっています。今のところはそのぐらいです。

(進行)

ありがとうございます。では事務局よりコメントさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございます。まずは指標を作ったというところで、これは毎年状況をモニタリングしていく。その中で進んでいくところ進んでいないところというのが見えてきて、当然指標設定がおかしいとか、もうちょっとこういう指標を入れるともっと深掘りしないといけないというのは当然出てくると思うので、そこを追加したり見直したりしていくということでモニタリングの精度を上げていくという事が一つ。あとは、結果を踏まえて何が足りないのかというところをもう1回整理して、また県だったら県の施策、市町村だったら市町村、企業に協力いただくということも含めて何をもっと具体的にやっていくのかというところをモニタリング結果も見ながらいろいろ議論していきたいというところに思ったりしているところです。この部会でもそうですし、他の部会でも非常に様々な課題がたくさんあって、意外とパートナーシップが足りていないところが多いなという感じもしますので、ベクトルをみんな揃って同じ方向を向いているということも含めてなんですけども、そこを揃えていく作業ということもモニタリングをしながらやっていきたいというところが大きいです。これは今我々が考えているイメージで、また色々ご意見いただきながら、アプローチを充実させていきたいなと思っています。

もう一つ教育についてはおっしゃる通り重要で、小中に関しては非常に関心が高いです。SDGsを知ってもらうという教育のアプローチと合わせて、考えてもらう、主体性を持たせたアプローチというのは最近かなり始まっています。県の教育委員会も一生懸命あちらこ

ちらでやっていますけども、学校の先生全員ができるかという点も必ずしもそうでもないので、場合によっては企業の方とかにも協力をお願いしているようです。先日経済同友会の委員会でも、セブンイレブン沖縄の方がちょっとお話しされていましたが、ニーズがあるのでいろいろ学校に出向いて講演するという話もありました。ただちょっと人手が全然足りていないと。こういうのはみんなで作っていく方がいいなと思っていますし、そういう意味では大学、高等教育機関ですね。OIST も含めて非常にお願いできるところがたくさんあるとかお願いしたいところが多々あるなと思っています。

(高林委員)

ちょっと素早くフォローアップしていいですか？そのコンテンツを作る時に大学とか大学院とかインダストリーの方々が、全部集まって面白い、アプライドになっている、応用ができるコンテンツを作れば本当に面白いかと思います、その時に力になれば、お声掛けしてください。

(進行)

ありがとうございます。その際は是非よろしく申し上げます。先ほど事務局から経済同友会のお話がありましたけども、先日私も視聴させていただきまして、赤嶺委員も発表されました。街クリーンとしての取り組み、5分間の動画本当に素晴らしくて非常に感銘を受けました。子ども達にもぜひそのコンテンツですね。どんどんやっていることをPRしていただければなと感じました。ありがとうございます。大城委員、いかがでしょうか。

(大城委員)

このアクションプランで前回と比べて非常に分かりやすく整理されているなというのが印象深かったです。その中でちょっと私の方が気になったのが二つありまして13ページのEMSで、エネルギーマネジメントシステムのところですね。先ほど説明された箇所ですけども、私がEMSって見たり聞いたりするとISO14001のエンバライメントマネジメントシステム、国際規格の方がピンときますが、このエネルギーのマネジメントシステムだけではなくて、環境のマネジメントシステム、国際規格のISO14001だとか、あとは環境省が進めるエコアクション21とか、そういった内容を私があまりしっかり見ていないからかもしれないですが、ちょっと見当たらないなというのと、あと個人向けではなくて企業に対してもどんどん脱炭素に向けて進めていかないといけないということを考えると、このキーワードは大事なかなと個人的には感じました。

もう一つは23ページですけどもここはすごく図式化されていて分かりやすいなと思いましたが、右側の方にフードロスというカタカナで書いてある。フードロス削減とありますが、これはSDGsの目標12の中の、ターゲットが12.3のところと繋がってくると思いますが、この12.3の中での表現の中で、フードロスとウェイストロス、二つあります。この中で言

うフードロスというのは販売している、作っているところが食料、商品を廃棄してしまうという意味でのフードロスで、家庭から出る、出す、捨ててしまうようなものはフードウェイストというような感じで表現されていなかったかなということで、SDGs の中では二つの捉え方があって、ここではもし家庭からのそういう食料の廃棄、食べられるのに捨てちゃうとかそういう意味で使うのでしたら、フードロスではないのでは？というのがありますが、厳密にはですね。ただ日本としてはフードロスというよりは二つまとめて一つの表現で食品ロスの方が分かりやすいのかなと感じました。以上です。

(進行)

大城委員、貴重なご意見ありがとうございました。この 23 ページについては SDGs 未来都市計画を策定する際にモデルの絵として描いていたものだったのですが、家庭ゴミだけではなくてその企業から出るものも含めてちょっと考えていたのですが、そこまで奥深く考えていなかったのかなという気がしました。食品ロスの削減に向けて循環してやっていく、今フードドライブですとか各生活困窮家庭に食品を届ける取り組みもやっている中で、モデル的な絵として描いていたものになります。先ほどの EMS ですね。18 ページについて、事務局の方からコメントいたします。

(事務局)

ありがとうございます。エコアクション等のところはちょっと研究させていただければと思います。ありがとうございます。あとはフードロスの件、23 ページのところのフードロスはそこまで考えていなかった話もありましたけど、どちらかというこの取り組みのベースが先ほど言ったフードネットワークというか、フードドライブというか、企業の皆さんからの廃棄とは言わないですけど食品を提供いただいてそれを貧困家庭に提供していくという枠組みの中で、結果としてこの中での相乗効果というところとフードロスの方が近い可能性はあるなというところ。ただ、全体としてはこれ以外のところは食品ロスと捉えていて、県の食品ロス削減計画からすると両方を含むような形になっています。ただ、そういった枠組みの中でも、例えばさらに大きい枠組みで先ほどお話があったサーキュラーエコノミーの話というのは、小売店などからするとフードロスも食品ロスもそうですし、とはいえ廃棄する食品というのは出てくるので、それをリサイクルしていくというアプローチも必要でそこは需要が高くなっている感じです。今ちょうど県の食品ロスをやっている課があり、廃棄物行政を担当する課、食品リサイクルを担当する課がありまして、そこと我々 4 課でワーキンググループを設置して会議を始めているところです。また食品リサイクルだと総合事務局が大きく変わってくるとか、市町村もこれからなんですけど SDGs 担当の市町村連絡会議というのもあったりするので、ちょっと個別にそういったところも議論していきながらフードロス、食品ロス。市町村だとそういう家庭ゴミ系の食品系の廃棄物の原因ということに

も関心が高いですし、フードロスと食品リサイクルを検討したいと考えております。

(進行)

大城委員、ありがとうございます。

(大城委員)

ありがとうございます。そうですね。おっしゃる通りだと思いました。使い分けがされていますよね。食品ロスとフードロス。後でいいですが、あと1点気になるところがありました。説明資料の分も含まれるのですか？

(進行)

どうぞ。資料1、資料2両方です。よろしくお願いします。

(大城委員)

資料の12ページで32のところの目標のところ、最後の方に低炭素で災害に強い島嶼型社会を実現するとあり、同じような事が33にもありますが、今なおこの「低炭素で」とここで表現しているのは何か意味があるのかなと。現在、ほとんどが低酸素から脱炭素へと表現を変えているところかと思いますが、あえて低炭素となっているのでどうしてだろうという疑問があったので教えて頂ければと思います。

(進行)

ご指摘ありがとうございます。記載内容検討して参りたいと思います。ありがとうございます。宇賀神委員よろしいでしょうか。お願いします。

(宇賀神委員)

私が色々意見を申し上げた部分で24ページのモデル事例みたいな形で実現していただいたことや、沖縄らしさのローカル指標もすごく工夫されているというところで、とても感謝申し上げます。ちょっと細かいことを最初に申し上げれば、赤土の指標が確かあったと思いますが、15ページの優先課題⑦の1のところは多分現状値と目標値が、目標値が増えているのでこれ多分流出量は減らすということだと思うので、単純ミスなのかなというところと、さっき申し上げたモデル事例については多分中身をすごく議論されていたというところがありますが、これはせっかく良いものを作っていたので、できれば派手めにといいうか、前の23ページみたいに色をいっぱいつけていただいた方が、これからの良い社会をつくるという表現型ですので、そこはちょっと工夫された方がいいのかなというところがございます。

私からは何点か申し上げるとすると、全体的な話からすると先ほどの島嶼生態系とかあ

りますけど、私がこだわっているのはやはり沖縄らしさというところと、あと将来にわたって良い沖縄の環境を作るといふところだと思います。その前提が島嶼、島国であるといふことで、他の自治体、県とかと比べると外と中といふのがすごく海で分かれていますので、例えば災害の時に電気が融通できないとか色々あると思いますが、そういった状況の中で県内の資源を持続可能な形で最大限に生かすといふことだと思います。例えばお金なんか外から物買っちゃうと中からお金を出さなきゃいけない。それをやっているとなかなか富が蓄積しない。経済的にはちょっとマイナスになると。そうすると、昔からといふか、昔といふのはすごく昔からだといふんですけども、中で作れるやつは中で作る。それは食料もそうだし、もしくは人材育成とかもそうだと思いますけど、そういうところは必要なのかなといふところですよ。

今沖縄の中ですごく重要なのは、人材育成は当然ですけどもう2点あると思っていまして、一つは水資源ですね。先ほどの電気と同様に外から持って来られないという意味では水資源ってすごく重要だと思います。人が生活、生産するといふ中で。その問題が今非常にクローズアップされているといふところは、政治的な話になりますけど、とても根本的なそれが確保できないと素晴らしい未来がないのではないかと、作りにくいのではないかと思っています。それともう1点は土地問題ですね。限られた土地を、島嶼といふことでありますので、そこから高度な利用をする。お金を生産するのもそうですし、生態系サービスと言われるさっきの水とかもそうなんですけど、そういったものを提供してもらふ土地をしっかりと確保するといふところが、このベースとなる条件なのかなといふふうに考えます。以上です。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございました。ちょっといくつか確認をしながら事務局の方で答えといふかコメントをさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございます。赤土の目標値の話は言われてみると確認が必要だなといふことで確認させていただきます。

カラフルな話はおっしゃる通りで、アクションプランはちょっとどうしても見た目が堅苦しいところもあるので、リアル用のパンフレットみたいなものもちょっとまとめていこうかなと思います。そういった中で見やすく分かりやすく親しみやすいものに工夫できればと思っております。

沖縄らしさ、島しょといふところで離島も含めて話といふのは非常に重要だと思っております。先日離島振興計画といふのは毎年10年ぐらいで作っていて、これを新しく見直すといふ作業があつて、画期的といふほどではないですけども今まで通り離島の計画を一律に書くので、島ごとに4つぐらいに分類して、分類した上で地域、島の特性に合わせた振興とか基盤整備といふことをやっていこうといふ話になってきました。また、さらにそれを踏まえ

て離島、市町村の方で考えつつということになりますが、まさに水資源と観光、定住条件。この三つは大きなテーマになってきます。例えば大東島とかですね。飲み水は海水淡水化で担っているというところでかなりコストがかかっている。コスト面についても県全体で広域化する形で料金の上昇を抑え込むというそういう動きになってはいますが、いかんせん資源量という意味で目に見えている。本島から送水管で送っている離島であればあまり心配せずに、割と気にせずに、と言っても怒られますが、民泊とか受けたりしていますけど、そういう水資源を支えている生活基盤というところでまた島ごとに違ってくるということもあって、ちょっとキメ細かく考えていくというところは大事ななと思っております。ただ全体として持続可能な観光という観点で、観光客をとにかく増やしていくというアプローチはもう見直そうという動きにはなっていますので、その中では地域ごとというかゾーニングをしながら具体的な水資源の保全というのも含めて考えていくことになるのかなと思ったりしています。その辺重要な視点なので、関係部局とかも協力しながら議論をさせていただきだきたいと思っています。

あとは循環の話をしていただきました。これは前回の会議で齋藤委員からも話しいただいた部分でもあるんですけども、お金の循環、物質の循環というのが重要であるというお話でした。来年度から始まる新たな振興計画でも域内循環率を重視していて、地域でお金と資源も含めてだと思いますが、お金が循環していく仕組みを重視すべきだというアプローチになっていて、そこからまた具体施策を組み立てられていくのかなと思っています。離島の話もちょっと出て、離島は生鮮食料品ですね。野菜は結構苦労していますね。台風で船が来なくなると野菜の輸送が止まったりするという課題もありました。最近コンテナで植物工場みたいに野菜を作るという技術も出てきていて、今は県の方では補助金をつけながらそういう離島、小規模離島ですけど、小規模離島にそういう技術を入れて、地域で野菜を作っていく、地域で消費する。何かあった時には安全保障ではないですけど、生活を支える基盤になる。そういうアプローチも初めています。アクションプランの中にどこまで入れられるのかというのはちょっと工夫をさせていただきながら引き続きいろいろとご意見いただければと思います。

(進行)

ありがとうございました。それでは齋藤先生よろしく申し上げます。

(齋藤委員)

とってもよくできているというか、大変な努力の産物だなと。あまり言うこともないんですけど、公共交通、車社会と言われるようにたくさん車があって渋滞もアイドリングもひどいしガソリンも高いしみたいな、経済的にも痛めつけられるし CO2 もたくさん出すしということで、公共交通の利用の促進ということで。ここにも公共交通書かれていて、どこにあるのかなと思って探していたら、確かに公共交通⑥-2 の下の方に書いてあって。その文言を

直せというよりもコメントなんですけども、公共交通の促進となるとある意味で高齢化対応を兼ねる部分かなと。次第にドライバーライセンスの返上をする例が増えたり、元々過疎地域のお年寄りの足どうするのかとか、そういう時にコミュニティバスとかそういう取り組みがあったりすると思いますが、その辺コミュニティバスを作ったり高齢者の割引とか、あるいは無料化とか、そういうあたりがどこかに高齢者という対応というのが滲んでいるといいなと。別にここに書けということではなく、どっか滲んでればいいなと思うなというところが気になったというか、個人的に思ったこと。

あとはコメント、全部コメントなんですけど、優先課題⑥の続き 14 ページの EV、PHV の導入数を増やそうということ。指標ですね。指標が県の公用車というふうになっていて、これを 600 台まで増やそう、県が率先してこれをするという点ではなるほどとも思うけども、これを指標として考えると統計として他の国土交通省、運輸局的な、どこかそこから数字もらえばいいんじゃないのかなとも思ったりしました。

優先課題④の続き、11 ページですかね。産官学連携で高付加価値の産業を創るというようなこと。これ僕はちょっとシニカルな立場から考えると、これまでも結構言ってきたなりに大学にお金をつけていただいてきた経緯もあると思いますが、それを測る指標がスタートアップ企業創出数というふうになっていて、新しくベンチャー立ち上げましたよと。それにどれぐらいお金出しました。これだけ出しました。というようなそういうことを指標にしようとしている感じがしますが、一方で作っては潰すというか、ベンチャー新しく作りましたということ繰り返している感じもあって、これまでお金を出したところが実はどれぐらいそれが産業化に成功して地域に定着して、地元にお金をもたらして雇用を作っているのか。その辺がお金あげた数で測ってしまうと指標としてどうかなという思いがちょっとあります。

もう一つコメントです。これもコメント。12 ページ優先課題⑤の下の段なんですけども、ICT 推進というようなことで、情報通信関連産業における労働生産性という指標が上がっていて、全国平均が 975 万円あるのに対して、県内が 539 万円。こんなに低いんだなという率直な思いですけど、一方でこの県内の学生の就職活動とか面倒見ていると県内に IT 企業というのがあって、毎年僕の学生も何人か IT 系に就職していくんですけど、それが仕事の内容を聞いたりすると結構労働集約的な IT。プログラムをキレキレに書くというよりは、何か東京で作ったもののテストだったり、この単純作業的なコンテンツ作りだったり、そういう感じを受けてですね。そういう会社のホームページとか見るとニアショアと書いてあるんです。オフショアに対するニアショアだと思います。つまり沖縄の賃金が安いので労働集約的な事は沖縄にやらせておけというような感じで、僕は内地出身ではあるんですけどちょっと沖縄が侮辱されているという感もあって、こういう構造をどう変えていったらいいのかなというのをちょっと、これはコメントです。変えて欲しいとかそういうことではなく。一旦以上です。

(進行)

貴重なご意見を多く寄せていただきましてありがとうございます。では事務局からコメントさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございます。公共交通のご意見ありがとうございます。公共交通は優先課題⑥の3の方に、人にやさしい街づくりみたいなのところに似たようなことで公共交通入れさせていただいて、そこで滲む形で読めるようにできればなと思っております。ちょっと高齢者もそうですし、いろんな方々、運転免許がない外国の方とかも含めた、人にやさしい街づくりという点でも公共交通というところは滲み出るような形に整理できればと思っております。

PHVの話については非常に悩ましく、結論からすると指標については引き続き見直し作業の中で色々検討していきたいところです。ちょうど環境省あたりが今度補正予算案で自治体の公用車のEV導入みたいなのをまた促進するという話があって、これは再生可能エネルギーとの組み合わせというのと、シェアリングを必ずやることをというその三つの組み合わせで各自治体の公用車のEV化ということを支援していくというそういう取り組みが始まる予定になっています。シェアリングが進むことで自動車保有率というのも減らしていくという狙いもあるのかなと思っております。これは結論としては駐車スペースが減っていきますので、これは土地の高度利用みたいなのところも繋がっていくというところを期待しているというところがございます。ちょっとシェアリングビジネスというところも今後広げていきたいなと思っておりますが、より良い指標設定というのは今後していきたいと思っております。

スタートアップについてもなかなか良い指標がなくて開業率・廃業率の話というのは統計データであるんですけど、沖縄県の開業・廃業についてはどちらかというと飲食業も含めてサービス産業、かなりのウエイトを持っていて、あまり技術系というか付加価値の高そうなところでの開業・廃業というのをウォッチする統計というのがなかったものですから、一旦スタートアップというところでやらせていただいています。例えばバイオ関係の企業というのは沖縄の中にも集積が進んできているなという印象を持っております。ワクチン開発なんかやっている会社も沖縄の中で出てきていますので、そういったものを何か拾える統計データがあるといいなと思います。若干難しくてもう少し色々研究をさせていただきたいなと思っております。適宜見直しをしていくということで進めたいなと思っております。

ITの話はおっしゃる通りです。ITは遠隔地というか島しょ性を克服する産業ということで、随分昔からなんとかアイランド構想とかですね。IT推進というのはずっとやってきました。最初はさらに労働集約型でコールセンターの誘致、集積というところから始まっています、これが最近ニアショア、オフショア。中国から近い地域なのでということ、と若い方が多いのでということでニアショアという形で進んでいて、そこはそこで産業としてステップアップしてきて、産業振興のなかで捉えていったという感じもします。テストベッド

としての場所というのも色々あって、組み換えソフトのテスト拠点みたいなものも作っていますけども、今後さらに踏み込んでコンテンツを作っていく、生産性の高いビジネスというのを作っていくというところが IT 関係、担当部局の方向性になっています。当然 DX という話もありますけども、観光との連動も含めた新しいビジネスというところも考えていくことございまして、ここは期待しつつそういったところの中で労働生産性が上がってきて IT 産業というのは高付加価値産業になっていくというところを期待しているというところなんです。そこを目指して頑張っていこうということで、指標設定をさせていただいたという経緯になります。

(進行)

事務局ありがとうございました。齋藤委員、よろしかったでしょうか。ありがとうございました。それではみなさん一巡してお話しただけでした。ここからはもう一つこれ付け加えたとか、ここ言い忘れましてということがあれば是非手上げでどなたかいらっしゃいますでしょうか。どうぞ。事務局から声かけがあります。

(事務局)

食品のサーキュラーエコノミーについては是非別の機会に結構ですので赤嶺委員からももう少しいろいろと産業界側の話もヒアリングさせていただければと思っていますのでご協力いただきたいと思います。食品リサイクルの収集関係は国が認可しているところですけどもコスト的に合う合わないとかいろんな意見もあり実態としてよく捉えきれていないところもあるので、市町村と色々お話しさせていただく前に一度お話を伺う機会を作ればと思っています。これはまた別の機会に相談させていただきます。

(赤嶺委員)

承知しました。

(進行)

ありがとうございます。いかがでしょうか。前回も同じようにこの場で言い足りなかったこと言い忘れたことがありましたら様式をお送りしますのでメールで書き込んでいただくような形を今回も考えております。よろしく願いいたします。皆さんいかがでしょうか。

(事務局)

スタートアップの話もありましたけど OIST の方ではスタートアップ関係の枠組みとか資金ですね。ファンディングみたいなところでいろいろトライされていると聞いていますので、そういった話も後日、うちの科学技術振興課あたりはちゃんと把握していると思いますが、また意見交換させていただこうかと思っています。

(高林委員)

分かりました。私が直接関係しているところではないですけども、紹介します。

(事務局)

ありがとうございます。

(進行)

いかがでしょうか。

(赤嶺委員)

ちょっと1点だけ。15 ページの1の生物多様性に富んだという所の方ですが、この資源循環社会への理解を深めるためというところがあるんですけど、この理解はしていて、もう少し踏み込んでというか、構築をするためぐらいのこの話をして、プラスそこで環境学習やリサイクル商品の積極利用を推進しますとか、そんな文言にさせていただけるといいのかなと。もう2030年までに一つゴールがあるとしたら、もう今の時点で理解を深めるということはもうすでに終えていないといけないと思いますし、もうアクションだと思うんですね。なので、ちょっと踏み込んでそこは文言も入れて生物多様性とはまた別に、僕はもうその業界のものなので、そこにちょっと踏み込んでもらえたらなというふうに思います。なかなか前進しないのですよね。理解はしているけども先ほどのお金の話とか言っていたんですかね。市町村との打ち合わせをする前にということで、ここが後ろ向きなので、それを前進させるためにこの文言を入れるということは大切ななと思っていますのでご検討いただきたいと思います。以上です。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございました。では事務局の方お願いします。

(事務局)

ありがとうございます。教育関係は全部書き込むと全てに入ってくるのでなるべく散らばらさないようにという意識で書きまとめたという経緯もありますが、並べると少しトーンが違うのでこの二つの1と2の中で少し分けて整理をしておいて、自然環境の保全、気候変動対策、そちらも含めて理解というよりはもうちょっと踏み込んだ目的意識を持った書きぶりに見直しができないか検討してみます。

(進行)

では残り時間わずかとなりました。よろしいでしょうか。高林委員お願いします。

(高林委員)

アクションのところは本当に私も賛成します。それでプラットフォームで、もしプラットフォームできたら、実際に例えば生態系の多様性のことだったら沖縄のネイティブな植物を植えるグループがあってそれで頑張りましたよというレコグニションみたいなのをできれば、コーディネートして県で認められてこれだけ数字も上がりましたよという、そういう目で見られればみんながエンカレッジされるかなと思うんですが。

(進行)

おっしゃる通りだと思います。そういう意味でのプラットフォームでどんどん取り組みを、皆がやっている取り組みを見える化してその方向に行くというのが非常に大事ななと思っていますので、引き続き頑張っていきたいと思います。ご協力よろしくお願いします。時間来ましたので一旦事務局の方にお返しします。ありがとうございます。

(事務局)

後ほどペーパーをお送りさせていただいて言い足りないところ、後からお気づきのところあったら送りいただければありがたいと思います。

時間超過しましたがこれもこれをもちまして会議の方終わらせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。